

## がん診療における放射線治療の役割

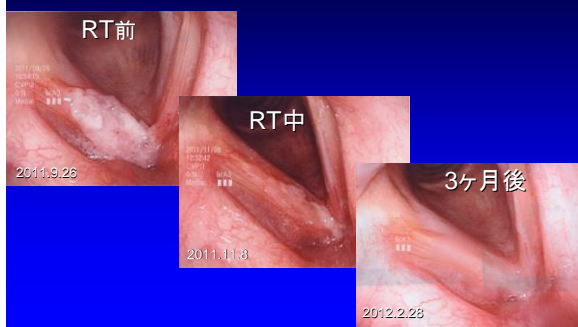
放射線科 医師 沓木 章二

本日は、がん診療における放射線治療の役割についてお話します。欧米では、がん患者さんの約 60%が放射線治療を受けているのに対して、日本では約 25%とされています。実は多くのがんに対して放射線治療の有効性が証明されているのですが、日本ではあまり知られていません。がんに対する高い効果以外にも、身体的・経済的負担が少ないなど多くの利点があるため、国も「がん対策推進基本計画」の策定などを通じて放射線治療の普及に努めています。

“放射線”と聞くだけで何だか恐ろしいイメージを持つ人もいるかもしれませんが、実は皆さんが思っているほど大変な治療ではありません。1回の放射線治療に要する時間は10分程で、これを2週間から2ヶ月弱の毎日（土日祝を除く）連続して行います。治療期間中も、普段と変わらない生活が出来ます。時間のやり繰りがつけば、仕事を続けながら治療を受けることも可能です。治療する部位や回数により、多少の副作用（日焼けに似た刺激症状）が出る場合もありますが、ほとんどは治療終了後2週間〜で軽快します。



### 図1: 早期喉頭癌



放射線治療は、手術・抗癌剤と合わせて“がん治療の三本柱”と言われています。幾つかのがんでは、手術と放射線治療の成績が同じである事が証明されています（同じ局所療法である手術と放射線治療を比較・選択できる事で、治療の幅が広がります）。また両者を組み合わせる事により、治療効果を高めることもできます。

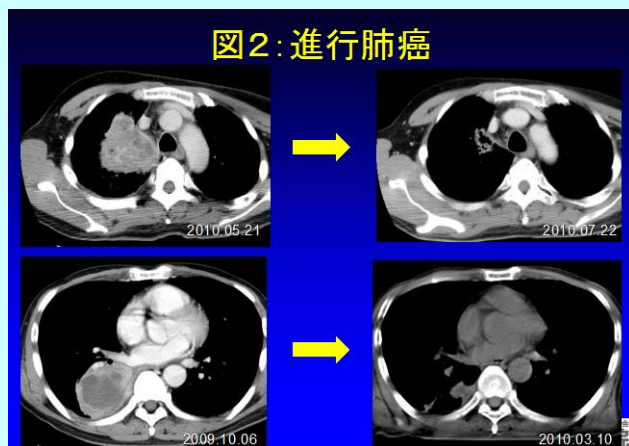
放射線治療と抗癌剤の組み合わせは特に有用です。放射線治療単独、或いは抗癌剤単独では治すことが難しいがんが、両者の組み合わせにより飛躍的に効果が高まる事が知られています。放射線治療が有効ながんの例として、ここでは頭頸部癌（喉頭癌）と肺癌の例を示します。

放射線治療が有効ながんの例として、ここでは頭頸部癌（喉頭癌）と肺癌の例を示します。

早期の喉頭癌であれば、放射線の単独治療にて 95%治すことができます（図1）。早期の肺癌であれば、高精度照射法によって、手術と同程度の成績であることが報告されています。進行肺癌の場合には治癒は難しいですが、抗癌剤と併用することで従来よりも成績が改善することが知られており、ガイドラインでも推奨されています（図2）。この他にも多くのがんで、放射線治療の有効性が報告されています（詳しくは、医療機関のホームページや各種診療ガイドラインなどに載っています）。

あらゆる治療を行っても、残念ながら現在の医療では治せないがんも多くあります。この様な場合でも、がんに伴う様々な症状を放射線治療によって緩和することが出来ます。一般的にはがんの痛みには鎮痛剤が用いられますが、放射線治療によっても痛みを和らげる事が出来ます。鎮痛剤が効かない痛みが放射線治療で治まったり、放射線治療後に鎮痛剤が不要となることもあります。がん（胃癌や大腸癌、子宮癌など）からの出血に対しても放射線治療は有効です。治療開始後1〜2週間で止血効果が現れ、貧血の

### 図2: 進行肺癌



がん診療における放射線治療の役割

進行を防ぐことができます。がんによる食道や気管などの狭窄も、放射線治療により多くは1ヵ月程で改善が得られます。がんが完全に治らなくても、患者さんにとって口から食べられる事は大きな喜びです。この他にもがんによる様々な症状を緩和できますが、詳しくはWHO（世界保健機構）のホームページにも掲載されています。

種々のがんや症状緩和に有用な放射線治療を1人でも多くの患者さんに提供できる様に、大和市立病院・放射線科スタッフ一同、主診療科と連携しながら毎日頑張っています！

# 新任医師の紹介

今年4月に新採用となった医師です。どうぞよろしくお願いいたします。

平成25年4月1日現在、常勤医は77名となり、前年度に比べると消化器内科、小児科、産婦人科等で増員となり、5名の増加となりました。

診療部長（乳腺外科）

くらなみ まさる  
藏 並 勝

整形外科

そう たくりょう  
庄 沢 亮

たけうち ひさえ  
竹内 久恵

小児科

はやの さとこ  
早野 聡子

わだ よしまさ  
和田 芳雅

むらた むねのり  
村田 宗紀

やまもと あやこ  
山本 亜矢子

消化器内科

あさみ まさき  
浅見 昌樹

なかのま ひろし  
中野間 紘

呼吸器内科

やこ せいたろう  
八子 誠太郎

なかしま けんたろう  
中島 健太郎

腎臓内科

ふじの りょうた  
藤野 綾太

皮膚科

みい すみゆき  
三井 純雪

産婦人科

あらた よしこ  
荒田 与志子

はせがわ てつや  
長谷川 哲哉

ささき まほ  
佐々木 麻帆

麻酔科

すずき せいどう  
鈴木 盛道

外科

かまた ひろき  
鎌田 弘樹

研修医

みなみざわ けいすけ  
南澤 恵佑

よしだ ゆう  
吉田 優

いしわた ひろあき  
石渡 博昭

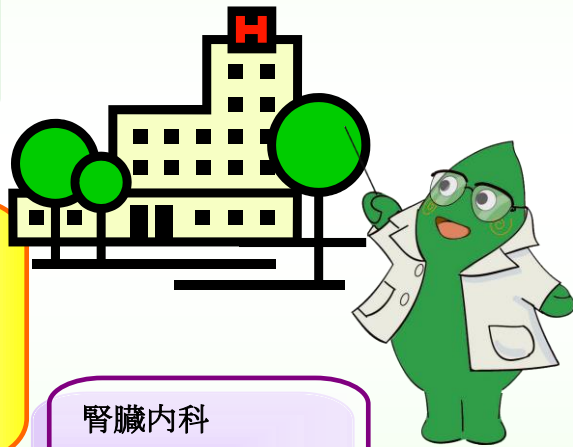
やまじ たかひろ  
山地 孝拡

泌尿器科

いわさき まこと  
岩崎 誠

呼吸器外科

なかの たかゆき  
中野 隆之







## 周産期医療の機能が充実！ NICUを増床



当院では、3月26日付で県の許可を受け、周産期医療機能の充実を図るためNICU(新生児集中治療室)の病床数を3床から6床に増床しました。

NICUとは、低出生体重児やさまざまな疾患を持って生まれた新生児を集中治療・管理する病室であり、県央医療圏においては市立病院のみに設置されているものです。

同医療圏では、人口に対して病床数が少ない状況にあり、周産期医療体制の充実が求められていたことから、NICUを増床する計画を積極的に進め、昨年12月から4階南病棟内の改修工事を実施し、今年3月に新NICUが完成しました。

新NICU施設は、従来の倍以上の広々としたスペースを確保するとともに、専用の授乳室も新設しました。また、NICU稼働に必要な保育器、光線治療器等の医療機器を増設するなど、設備の整備も実施しました。



人的面では、NICU専従の看護師を病床数の増加に合わせて6人から12人に倍増しました。

周産期医療の機能を充実させたことで、地域住民の皆様には、より一層の安心を持っていただけるものと思います。

今後も小さな命を守るため、我々スタッフ一同心を込めて対応してまいります。



## 人間ドック講演会のご案内

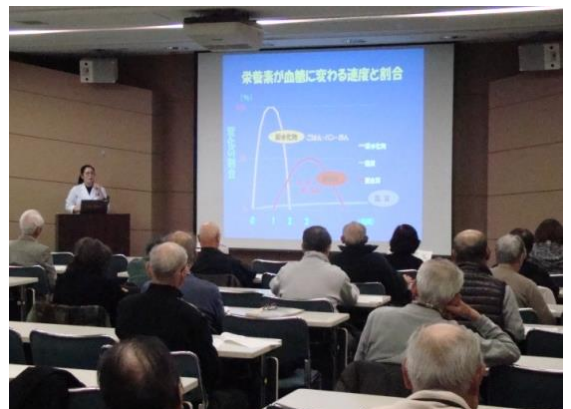
日時：平成25年6月25日(火)午後2時30分～

場所：市立病院 3階講堂

内容：『年齢に則した適度な運動について』

講師：リハビリテーション療法科 理学療法士 大槻かおる

※参加費は無料です。どうぞご来場ください。



# DMAT指定病院に指定

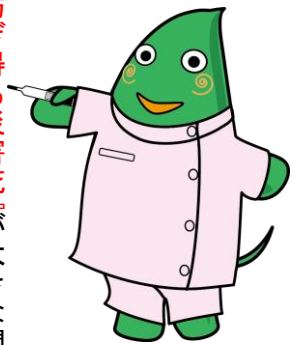
## 災害時に迅速に対応

### 医療救護体制の強化

当院は3月25日、神奈川DMAT(ディー・マツト)指定病院に指定されました。DMATとは、「大地震及び航空機・列車事故等の災害時に被災者の生命を守るため、被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チーム」のことを言います。その医療チームは、医師・看護師・業務調整員で構成され、災害発生直後の急性期に活動が開始できる機動性を持ったチームです。阪神淡路大震災では、多くの傷病者が発生し医療の需要が拡大する一方、病院も被災し被災地内で十分な医療が得られずに死亡した、

いわゆる『防ぎ得る災害死』が大きな問題となりました。その教訓を生かし、DMATの養成が開始され、中越沖地震や東日本大震災では、実際に多くのDMATが被災地に参集して活動に当たりました。

当院でも、医師1名、看護師2名、業務調整員2名の5名1チームが結成され、2月に行われた研修を受け、DMAT隊員として登録され、3月25日には当院と神奈川県が協定を締結し、神奈川DMAT指定病院に指定されました。当院は災害拠点病院に指定されており、災害時には、拠点病院として力が発揮できるように、さらに体制が強化されました。



＜登録された隊員＞



＜危険な環境に備え、  
防具を装着しての訓練＞



＜傷病者を被災地外に飛行機で搬送を  
想定した訓練＞

## 助産師・看護師募集中

＜お問い合わせ先＞

病院総務課 総務調整担当  
TEL : 046-260-0111 内線 2347

大和市立病院で  
一緒に働こう！

